



Tottori University of Environment

# レポート

第27号

Aug. 2016

K A N K Y O D A I R E P O R T



TUESしゃんしゃん愛好会。第52回鳥取しゃんしゃん祭りにて 平成28年8月14日撮影



Environmental Research Laboratory

## 実験研究棟

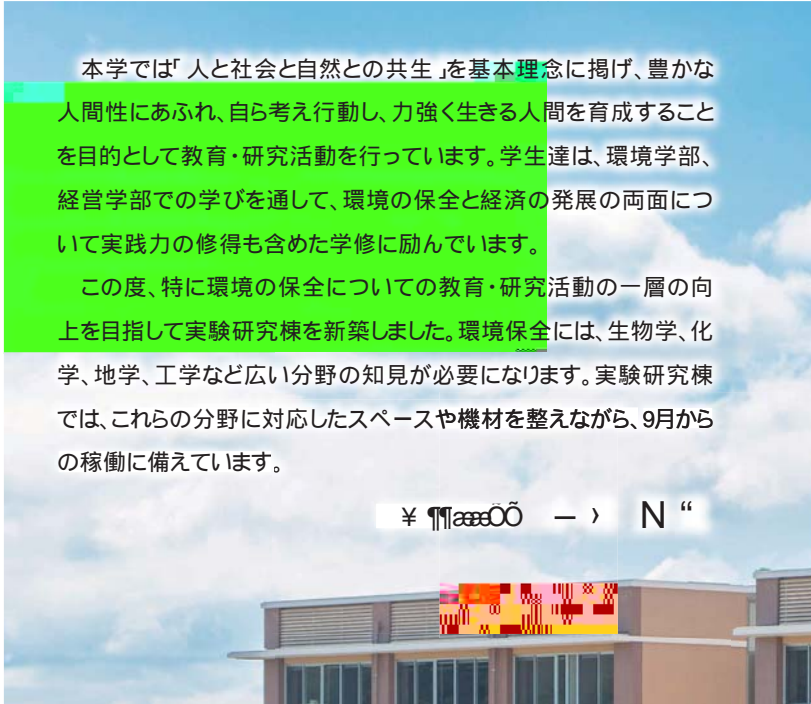
2016年9月より稼働

# 実験研究棟

本学では「人と社会と自然との共生」を基本理念に掲げ、豊かな人間性にあふれ、自ら考え行動し、力強く生きる人間を育成することを目的として教育・研究活動を行っています。学生達は、環境学部、経営学部での学びを通して、環境の保全と経済の発展の両面について実践力の修得も含めた学修に励んでいます。

この度、特に環境の保全についての教育・研究活動の一層の向上を目指して実験研究棟を新築しました。環境保全には、生物学、化学、地学、工学など広い分野の知見が必要になります。実験研究棟では、これらの分野に対応したスペースや機材を整えながら、9月からの稼働に備えています。

¥ 11,000,000 - 100 N



実験研究棟



実験研究棟



12期生の就職  
景気改善の勢  
で積極的な  
2015年  
の広報  
ジャー

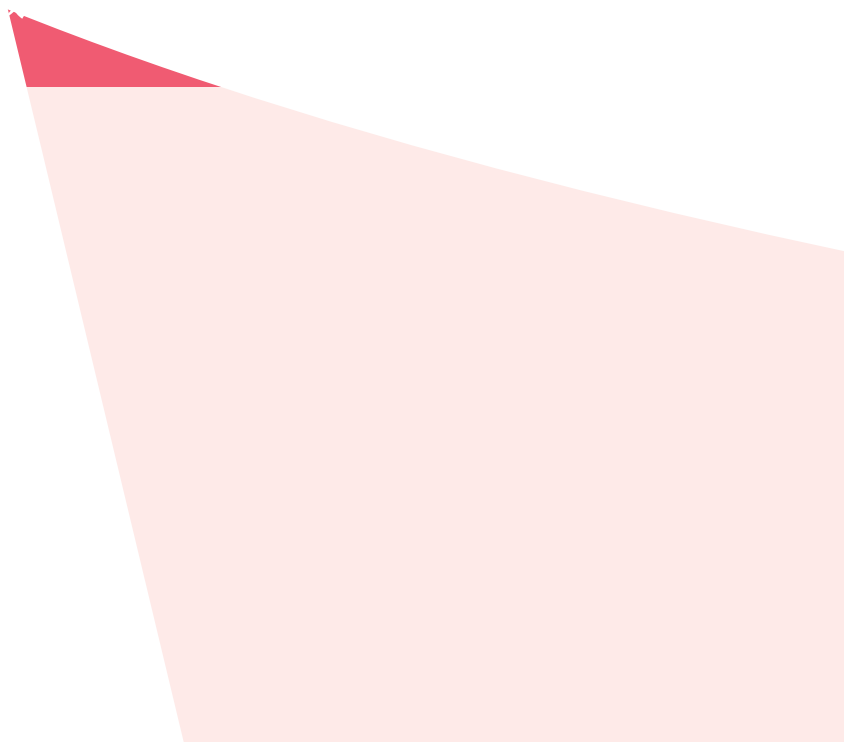
活動は不安が多いながらも、学生達は行動量を増やし、視野を広げながら積極  
的の就職活動に取り組み、自身が納得いく企業から内定を得られるまでチャレ  
ンする学生も多く見られました。

学生達は、大学で身に付けた専門知識や行動力、大学時代に取り組んだ多  
くの経験などを持って、社会人としての新生活に胸を膨らませながら卒業して  
いました。これからの社会の中で大いに活躍してくれるものと期待しています。

φ-»£ w ô² @ „Ê /Ê  
ir' À a a À « 3' € †  
ú • Z a í a ? > K"  
a 7 À K - À « ž ï' = 1¼ t  
æ'Ú" À pi Ôç a Ú % À K - e À «











## 学生たちによる子どもたちの学習支援「環大スタディ」始まる!!

292名(環境学部142名(うち3年次編入学1名)、経営学部150名)、大学院生3名が入学しました。

式典では、学部新入生代表の近本美乃里さんと、大学院新入生代表の荻原悠季さんがそれぞれ入学宣誓を行い、近本さん「自然豊かな環境で様々な体験を通し、生き物の生態や地域の特色を直接感じることでより深い知識を身につけるとともに、自然とどのように向き合い、資源をどのように活用すべきかを学び、大学の基本理念である「人と社会と自然との共生」を実現するため、研究していきたい」と、今後の意気込みを述べました。

また、歓迎セレモニーでは、和太鼓部による和太鼓演奏が行われ、力強く勇壮な演技が披露されました。



## 2016年度 公立鳥取環境大学 学部・大学院入学式を挙げる

4月4日(月)、とりぎん文化会館梨花ホールにおいて、入学式を挙りました。学部生

後期白亜紀にすでに地球上に登場していたことも明らかとなりました。

この研究は、Nature Publishing Groupが発行する「Scientific Reports」において、論文が掲載されています。

### 【研究論文名】

Burrowing hard corals occurring on the sea floor since 80 million years ago (8000万年前から海底に出現していた潜行性イシサンゴ)

### 【著者】

千徳明日香(京都大学瀬戸臨海実験所)、徳田悠希(公立鳥取環境大学・鳥取県立博物館)、江崎洋一(大阪市立大学大学院)

### 【公表雑誌】

Scientific Reports(Nature Publishing Group)

発表論文URL:<http://www.nature.com/articles/srep24355>

### 【研究成果のポイント】

タマサンゴの飼育実験を行い、世界で初めて、砂の中に自ら潜り生活するイシサンゴを発見し、沖合の砂泥底に生息するイシサンゴの生活様式が明らかとなった。

砂中への潜行、姿勢の回復、砂による埋没からの脱出は、軟体部(ポリブ)が膨張収縮を繰り返すことで生じる。

このような砂の中へ潜るイシサンゴは、白亜紀後期の約8000万年前にすでに地球上に登場し、その後、多様化した。

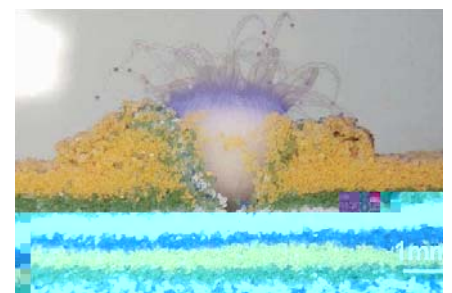


図1: 砂を掘って潜るタマサンゴ

## 研究紹介: 世界初、砂に潜る小さなイシサンゴの発見

- 海洋生物学における新たな知見 - (徳田講師)

岩美町と地域活性化を目的とした協定を締結 ~ 実践的な教育により地域活性化に貢献 ~



専門知識 学生の知財  
とする教育・研究活動  
る岩美町の地域活性

これまで 本学では  
などの岩 町の地  
教育活動 取り締  
タッフが 町に  
による 町の  
も盛ん した  
また  
拠点 川  
月が 一  
地域 活  
カリ 改革を  
協 働、これら教  
と 共進。さらに、  
と している「とっ  
フ ォーム」の活動の  
ト 。

では、高橋学長から  
研究のフィールドとして最  
から「学生には地元の人が気  
案をしてほしい」という期待のメン  
ほか、立会人として出席された林鳥取県  
事から「これまで教員が個々に行ってい  
動が組織同士のつながりとして協定に  
たことは意義深い」という発言がありました。  
調印式後には、本学の学生2チームが岩美  
に関連のあるテーマで発表を行いました。  
「永ゼミからは漁村の現状への問題意識から  
魚食普及にかかわるテレビ番組制作を通じて  
取り組んでいることを、泉ゼミからはトワイライ  
ト瑞風の運行を契機に、山陰を盛り上げるた  
めの企画をゴミ拾いイベントと関連させて取

組んでいることを紹介し、約30名の出席者は  
興味をもちました。



ついに10作目に突  
入した本作。小林教授  
と動物たちをめぐるほ  
のぼのどたばた珍騒  
動からますます目が離  
れなくなると、



動  
シリーズ  
の部屋で起  
- ゼミ室で飼わ  
類(ヘビ)が逃げ出し魚類  
て・・・!!他にも南米産の  
グラの仲間(ヒミズ)の  
ちが巻き起こす事  
語り口で掲載  
舞台は、  
せる水ダ  
ガを  
を

学生表彰 表彰

日商簿記検定 2級

五孝 圭佑

ファイナン

内田



# 副学長として



今井 正和 教授



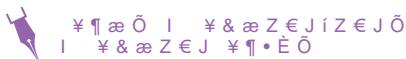
現在は経営学部の所属となっていますが、情報科学分野の研究をしています。音響信号処理、画像処理、ロボットの研究を行い、ふとしたことからある大学で日本初の電子図書館を構築しました。鳥取環境大学に着任してからは、ネットワークを用いた映像伝送の応用や、気象センサを密に配置してセンサからの情報を収集・蓄積することをテーマとしてきました。

このように書いてみると、それぞれのテーマの間に関連があるような、ないような、

よく分からないことになっているなど感じます。でも本人は、「コンピュータという機械はこんなことができるので、役に立つのだよ」ということを示してきたつもりです。人間の聴覚や視覚をコンピュータで「真似」をする、あるいは情報を溜め込んで必要な時に瞬時に引き出す。そういったことをテーマとしてきたのです。ネットワークを用いた映像伝送の応用については、少し毛色が違うようですが、最近、人工知能、ロボット、電子書籍などが話題になることが

多くなっていますが、それらを見ると「ああ、僕たちがやってきたことが今華開いてるんだなあ」と思います。それと同時に、未来に華咲くための種を仕込まないといけないとの思いを新たにしています。

# 環境学部の学部長として



小林 朋道 教授



公立化になって5年目。公立鳥取環境大学になっての第1期生240名がこの3月に巣立っていきました。そのうち123名が環境学部の学生達です。

ところで、高校の先生方への大学説明会等で、「農学部とか法学部といった既成のものとは異なった」環境学部はどんな学部か、どんなことをするのかといった質問をよく受けます。そんなとき私は次のような答えをします。

環境問題の改善のためには、さまざまな学問分野の研究、実践が必要です。環境学部では、自然環境保全プログラム(大気、水、土壌、生物からなる自然生態系を調べ、健全な状態を維持する方法を

る)、循環型社会形成プログラム(大量のエネルギーや物質を消費する人間活動が自然生態系に及ぼす影響を調べ、活動が生態系にダメージを与えない方法を探る)、人間環境プログラム(人間が、より快適な生活ができるように作り出してきた、居住地をはじめとした人工的環境を調べ、生態系と共存するあり方を探る)という3つの面から環境問題に取り組みます。学生諸君はフィールドワークを重視して環境問題の全体像を学びつつ、3、4年次で、それぞれが希望する専門分野を深めていくそれが環境に特化した本学部の強みだと思っています。また環境問題に、理論的、実践的にぶつかることを通して、それぞれ

の問題解決能力全体を高めることや教育者への道を目指すことも環境学部の特色だと考えています。

今年度は、環境学部教員の念願であった実験棟も完成する予定です。学部の教員全体が環境問題の全体像を念頭に、各々の専門分野でのびのびと教育、研究に取り組む そんな姿勢で、学生達としっかり向き合っていきたいと思っています。

## 人事報告 [2016.4.1付]

- 西村 教子 教授
- 荒田 鉄二 准教授
- 富岡 庄一 教授
- 岡崎 誠 教授
- 齊藤 明紀 教授

- 吉永 郁生 教授
- 北崎 寛 教授
- 根本 昌彦 教授
- 石川 真澄 准教授
- 名古屋 孝幸 准教授

# 着 | 任 | 挨 | 拶



R...i>”  
山西 敏博 - \$

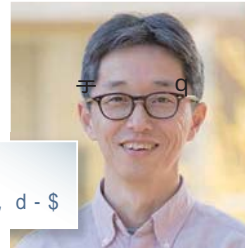
4月より人間形成教育センターにて着任いたしました。言語社会学を筆頭に、Testing やENIE(新聞活用教育:時事英語)、CLIL(内容言語統合学習)を専門としながら、授業は英語科目全般を担当しています。【日本列島徒歩縦断】を行いつつ、海外は35ヶ国・地域を放浪し、各種心理カウンセリング資格を有しています。「世界の人々と生命をつなぐための言語」- 英語 で「環境学・経営学を身につけるための基礎力と対話力を学んでいきましょう。全国各地やアジア諸国から集った、志の高い皆さんとお会いできた事を嬉しく思います。素晴らしい自然環境に溢れるこの鳥取の大地で、皆さんと共にさらに成長していきたいと願っています。



R...i>”  
桑本 裕二 - \$

本年4月に人間形成教育センターに着任いたしました。本学では英語の授業を担当します。英語を使って必要な情報を理解したり、思っていることを自由に表現できるようになるには、まずしっかりと文法や構文について知ることだと思います。「慣れさえすればどうにかなる」という考えがどうも教える側の人にも横行していますが、何も教えないまま英語で授業をするなどというのは全くおかしい教育です。

3月までは秋田に住んでいましたが、高校までは倉吉で生活していました。赴任して間もない頃、周りの人たちに「ここ(鳥取)は冬が寒いですよ、雪が降るし...」などと言われて返答に困ったものです。地元の風土や環境を生かした教育ができればと思っています。



¥1∞  
笠木 哲也 d-\$

本年4月に環境学部に着任いたしました。幼少を広島で過ごした後、学校や仕事の都合で東京、宇都宮、札幌、金沢と移り住み、この度ようやく中国地方に戻ってきました。私の専門は植物生態学で、植物だけでなく、植物と関わる昆虫や動物も研究対象にします。日本は南北に長く、しかも太平洋側と日本海側で気候が全く違うので、地域によって自然の様子が大きく異なります。鳥取の自然環境も私のこれまでのフィールドとはかなり違うので、大学周辺の林を歩いて、山に登っても「楽しい」発見の連続です。教育・研究では科学的方法論や調査技術の指導を重視しますが、学生には「楽しい」という気持ちを持ってもらえるようにしたいと思っています。



はじめまして。この4月に環境学部に着任いたしました山本敦史です。私たち人間は様々な化学物質を新しく作り出し、暮らしを多様で便利なものにしてきました。その結果、

今では人間以外の生物も私たちの作り出し



### 「公立鳥取環境大学の今」を発信!

TwitterやFacebookページなどで公立鳥取環境大学の最新情報を発信しています。パンフレットや公式ホームページでは紹介しきれないニュースや出来事など「公立鳥取環境大学の今」を発信しています。



ソーシャルメディア公式アカウント一覧

[http://www.kankyo-u.ac.jp/about/social\\_m/](http://www.kankyo-u.ac.jp/about/social_m/)